

CEOメッセージ

変革を加速し、 未来の成長を確かなものにする

お客さまと共に未来を共創する プラットフォームカンパニーへ

私は2023年の社長就任以来、「リース会社から大きな飛躍を遂げ、お客さまと共に未来を共創するプラットフォームカンパニーへ」を、当社グループの目指す姿として掲げてきました。

私たちが目指すプラットフォームカンパニーとは、お客さまの事業課題や社会的課題に対して、社内外の機能や複数の「解」を掛け合わせ、新たな価値を創出していく存在です。サーキュラーエコノミー、脱炭素、AI・ロボティクス、人手不足、経済安全保障、事業承継、M&A、資金調達の多様化等、お客さまが直面する課題は複雑化・高度化しています。こうした課題に対して、ファイナンス、事業投資・運営、サービス提供、デジタル、外部パートナーの知見やネットワークを組み合わせ、より多面的なソリューションを提供していくことが、当社グループに求められる役割だと考えています。

当社グループには、〈みずほ〉の国内最大級の顧客基盤、丸紅の国内外ネットワーク、アライアンスパートナーとの関係、そして当社自身が培ってきたアセットへの知見や事業開発力があります。これらをつなぎ合わせることで、お客さまや社会に対して新たな価値を提供する「価値共創のプラットフォーム」としての機能を高めていきます。その積み重ねが、当社グループの持続的な企業価値向上につながると確信しています。

中期経営計画2025で築いた変革の土台

中期経営計画2025では、「変革に挑戦する3年間」

を掲げ、事業ポートフォリオ変革と経営基盤強化の両面から取り組みを進めてきました。その結果、2025年度の当期純利益は476億円となり、営業資産の増加目標、経常利益ROAともに財務目標を達成しました。ROEについては自己資本の積み上げもあり11.7%となりましたが、収益力の強化と安定的な成長に向けた基盤は着実に前進しました。加えて、人的資本への投資、デジタル活用の推進、リスクマネジメントの高度化、企業カルチャー変革等、未来の成長を支える基盤整備についても一定の成果があり、変革への土台が整いつつあると感じています。

一方で、目指す姿の実現に向けては課題も残っています。持続的・安定的な成長を果たすためには、規模を拡大するだけでは不十分です。金利のある時代への移行や事業環境の変化をふまえると、より重要になるのは「稼ぐ力の向上」と「変化に強い組織」と考えていますので、事業ポートフォリオの変革によるROA向上や経営基盤強化を重要な経営テーマとして位置付け、変革を加速していきます。

中期経営計画2028 — 未来の成長を確かなものにする3年間

私は、中期経営計画2028を「変革を加速すると共に、未来の成長を確かなものにする3年間」と位置付けています。ここでいう未来の成長とは、この3年間の成長にとどまらず、その先の持続的な成長を実現するための基盤を築くことです。中期経営計画2025が変革の土台を築くフェーズであったとすれば、中期経営計画2028はその成果を成長につなげるフェーズです。ビジネスモデルの進化と事業領域の拡大による事業ポートフォ

代表取締役社長
中村 昭

CEOメッセージ

リオ変革を加速するとともに、変化に強い経営基盤の構築を進めていきます。

また、社会的価値創出の観点では、サーキュラーエコノミー、経済安全保障、成長戦略投資、脱炭素、人手不足への対応等に取り組みます。経済的価値創出の観点では、ファイナンスに加えて事業投資を強化し、本部ごとの稼ぐ力、すなわちROAの向上を図ります。これらを通じて、社会的課題の解決と当社グループの収益力向上の双方を進めていきます。

ビジネスモデルの進化と新たな価値創造への挑戦

中期経営計画2028では、アセット有効活用、フィービジネス強化、国際事業拡大、ミドルマーケットの成長支援を軸として、事業ポートフォリオ変革を推進します。その中核にあるのは、各事業領域におけるビジネスモデルの進化と、新規ビジネスへの取り組みです。

各本部が持つ顧客接点、専門性、アセットへの知見を活かし、お客さまへの提供価値を拡張しながら、各事業領域のバリューチェーンを広げていきます。あわせて、インオーガニック投資やアライアンスも活用し、新規事業探索機能を強化することで、将来の成長ドライバーとなる新たな事業機会の創出に取り組めます。

変化に強い組織への進化

私は、プラットフォームカンパニーの実現に必要なのは、戦略策定だけではなく、その戦略を実行できる組織であると考えています。戦略は実行されて初めて意味を持ちます。だからこそ、中期経営計画2028では、人的資本強化、企業カルチャー変革、デジタル活用による生産性向上、リスクマネジメント高度化、財務基盤の充実を通じて、「変化に強い経営基盤」の構築に取り組んでいます。

その中心にあるのは、「自律的な強い個の発揮」と「組織力の強化」です。

私たちが目指す強い個とは、高い専門性を持つだけでなく、自ら考え、行動し、変化を成長の機会として捉えられる人財です。そうした一人ひとりが課題を見出し、行動し、その結果を次の挑戦へとつなげていく。この自律的な課題解決サイクルが現場で回り続けることが、変化に強い組織の土台になると考えています。

また、経営基盤を強化するうえで、デジタル推進は欠かせません。AIやデータ活用は、単なる業務効率化や生産性向上のための取り組みではありません。定型業務の省力化によって生み出した時間を、より付加価値の高い業務へ振り向けるとともに、データやテクノロジーを活用して、お客さまへの提案力や課題解決力そのものを高めていくことが重要です。人とデジタル、それぞれの強みを掛け合わせることで、生産性と付加価値の双方を高めていきます。

そして私は変革の原動力となる「熱量」を大切にしています。どれほど優れた戦略や制度があっても、それを実現しようとする人と組織の熱量がなければ成果にはつながりません。社員一人ひとりが当事者意識を持ち、自ら挑戦し続けること。その積み重ねが個人の熱量を高め、さらに組織全体の熱量となって、新たな価値創造を生み出していくと考えています。

プラットフォームカンパニーとは、社内外の力をつなぎ、新たな価値を創出する存在です。その実現を支えるのは、強い個、自律的な課題解決サイクル、そして人と組織の熱量です。私は、こうした組織づくりこそが、当社グループの未来の成長を支える鍵であると考えています。

Action! It's my turn! — 私の出番だ！

2026年2月に実施した新本社移転は、単なるオフィス移転ではなく、経営戦略の一環として実施したものです。当社グループが目指す企業カルチャー変革を形にし、組織づくりを加速させるための重要な取り組みです。

新本社のコンセプトである「Action! It's my turn! — 私の出番だ！」には、変革を誰かに任せるのではなく、一人ひとりが自らの役割を果たし、未来を創っていくという思いを込めています。

変革の実現には、組織や役職の枠を越えたコミュニケーションやコラボレーションが欠かせません。新本社では、多様な執務スペースやデジタル環境を整備し、人と人、人と情報がつながる環境づくりを進めています。

また、タウンホールミーティング等を通じて、経営と現場をつなぐ対話も継続しています。企業カルチャー変革は制度だけで実現できるものではなく、日々のコミュニケーションや行動の積み重ねのなかで育まれるものだからです。

私は、こうした環境づくりと対話の積み重ねが、「強い個」と「組織力」をさらに高め、プラットフォームカンパニー実現を支える力になると考えています。

ステークホルダーのみなさまへ

社会や産業の構造が大きく変化するなか、企業に求められる役割も変わりつつあります。当社グループを取り巻く環境も大きく変化していますが、その変化のなかには多くの成長機会があると考えています。

その機会を確かな成長につなげるためには、事業だけでなく、人や組織も変わり続けなければなりません。一人ひとりの力と組織の力を最大限引き出しながら、当社グループの持つ強みをさらに磨き、未来の成長につなげていきたいと考えています。

私たちは、お客さまと共に未来を共創するプラットフォームカンパニーを目指し、新たな価値の創出に取り組んでまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

